

平成27年10月2日

地区コミッショナー 各位  
地区事務長 各位

第2回あいちビーバー・カブラリー  
実行委員長 富田 昭則  
プログラム部長 川口 由美

## 「第2回あいちビーバー・カブラリー」 全体プログラムの進め方について（お願い）

### 三 指

日頃より、ボーイスカウトの発展にご支援、ご協力頂き厚くお礼申し上げます。

第2回あいちビーバー・カブラリーにつきましては、各地区の皆様にご協力を頂き、鋭意準備を進めているところです。

さて、今回の「第2回あいちビーバー・カブラリー」では、全体プログラムとして、愛知ローバースによる「えんぴつ1ぽんでできること：スカウトが持ってきてくれた鉛筆を、発展途上国（アフガニスタン）の子ども達に寄付しよう。」を行うこととしております。

これは、スカウト各自が持参した自宅にある未使用の鉛筆をラリー会場で集め、発展途上国（アフガニスタン）に寄付することで、子ども達の教育に貢献するという活動です。

今回のラリーで全体プログラムとしてこの活動を展開するあたり、事前に自隊の活動などで趣旨について説明をして頂きますよう、別添のとおりスカウト用説明資料を作成いたしました。

趣旨をご理解いただき各団指導者の皆様へご周知頂きますようお願いいたします。

弥 栄

## 「第2回あいちビーバー・カブラリー」 全体プログラムの進め方について（お願い）

「第2回あいちビーバー・カブラリー」では、「仲間と楽しく遊び、自分たちには多くの仲間がいることを確認すること」を目的の一つとしています。スカウト達は普段活動している隊や団以外のスカウトを知り、一緒に活動することによりボーイスカウトという仲間同士のつながりに関心や興味を持つことでしょう。また、この夏は第23回世界スカウトジャンボリーが日本で開催され、世界の国と地域から多くのスカウトが山口県きらら浜に集いました。ビーバースカウトやカブスカウトもデイビジターとして会場を訪れ楽しみました。ボーイスカウトは国際活動を奨励していますが、まさに「スカウトは国際組織の一員として国際理解を深め、国際活動について学び、実践する。」を日本中の多くのスカウトがいろいろな方法で体験できたといえます。大きなことは出来ませんが、今回ラリーに参加したビーバースカウトやカブスカウト達にも、世界ジャンボリーの開催年に、少しでも自分達以外の子ども達のことを知ってもらい、行動することの大切さを体験することで、「スカウトのワ」を少しでも広げていきたいと思えます。

「第2回あいちビーバー・カブラリー」での全体プログラムが、ビーバースカウトやカブスカウトが、これからの社会を担っていく若者として成長していく上で、世界に視野を広げ興味を持つ小さなきっかけになればと思います。

（\*ブースプログラムは、モリコロパークの自然豊かな場所で、花と緑と水となかまをテーマにした活動を行うので、ラリーでのスカウトの目標との繋がりがわかりやすいと思います。指導者の皆様におかれましては、ボーイスカウトの運動の趣旨を念頭に置かれて説明下さい。）

### ■隊で事前をお願いしたいこと

#### 1. ラリー当日までに鉛筆を集めてください。

未使用のものに限ります。強制ではないので、改めて購入するのではなく家にあるもの（使わずにあるもの、あまっているもの）をお願いします。

#### 2. 鉛筆が今回のラリーでどのように使われるのか、活動の趣旨をスカウトに説明して下さい。（一例）

スカウト達は学校で勉強することはもちろんのこと、今回はラリーでみんなと楽しく活動することが出来ること。

もう少し広く外国の子ども達はどうか。実際には幸せな子ども達ばかりではなく、学ぶことすら出来ない国の子ども達もいる。

でも、遠くの見えないところにいる子ども達のために出来ることはある。

使っていない鉛筆を寄付することで、学ぶことが出来るようになるお手伝いが出来る。

#### 3. 集めた鉛筆は、国際協力NGOジョセフ（JOICFP）を通じて、発展途上国（アフガニスタン）の子ども達に寄付を行います。